



南海電鉄〈高野線〉



急カーブに急勾配の路線を上る
聖地への案内人、「天空」。

標高約900mに位置する弘法大師空海が開いた真言密教の聖地、高野山。清浄な空気が満たされている神聖な山上都市へと人々を導くのが、南海電鉄の展望列車「天空」である。

急勾配の斜面に張り付くように、蛇行しながら進んでいく線路。曲線半径100mの急カーブを曲がるために、一般的な車両より全長が3m短く、50%（パーミル）と言っ急勾

配を上るために、各車両に駆動モーターを搭載している特別な車両だ。それでも急カーブにさしかかると、スピードを極端に落とす。レールと車輪の擦れ合う甲高い金属音が、静寂な山間に鳴り響く。高野山は今なお容易に辿り着けない聖地だ。

「こつや花鉄道」プロジェクトは、世界遺産・高野山への道中を魅力的にするための様々な取り組みの総称で、駅のバリアフ

リー化や美化活動など南海電鉄と地域の住民が協働で行い、そのシンボリック存在が「天空」である。

極楽橋駅まで導くと、「天空」はその役目をケーブルカーに引き継ぐ。俗界の喧噪から離れ、きらめく緑の中約30度の急勾配を一気に駆け上る。山上で迎え入れてくれるのは、優しい光に包まれた天空の聖地、高野山だ。

世界遺産の町石道



町石道の起点慈尊院と丹生官省符神社



慈尊院と高野山の中程にある丹生都比売神社

高野山町石道は
慈尊院から伸びる
信仰の道である。

高野山町石道は、慈尊院から高野山奥之院へと続く参道である。高野山開山時には物資を運ぶ道として、開山してからは信仰の道として1200年もの間、大切にされてきた。当初町石は木製の卒塔婆で、鎌倉時代に石造に立て替えられたと言われている。かつての巡礼者は町石のひとつひとつに手を合わせ、頭を下げて奥之院を目指した。町石とは1町(約109m)ごとに立てられている高野山への道標である。2004年、「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部として世界遺産に登録された。



高野山真言宗総本山金剛峯寺
住所/高野町高野山132
電話番号/0736-56-2011



南海電鉄 高野線
電話/0120-151519(フリーダイヤル)
運行区間/橋本駅~極楽橋駅
(極楽橋駅~高野山駅=ケーブルカー)
<http://www.nankaikoya.jp/>



屋根の頂上に擬宝珠がある高野山駅は平成17年に登録有形文化財に指定された。昭和ロマン溢れる2階の待合室は誰でも利用でき、ソファに腰掛けゆったりとした空気を味わいたい。



レトロ感たっぷりな駅長の表札。



車窓を思う存分楽しめるように天空の座席は窓側を向いている。明るく開放感溢れる車内ではお弁当を食べる人も。座席のシートには高野山に棲息するモリアオガエルのイラスト。車内が木目で穏やかな雰囲気。※天空の乗車には座席指定料金(500円)別途必要。



春になると沿線に植えられた桜が観光客の目を楽しませる。高野山の山間、橋梁を渡る急勾配を上る天空。最急勾配50%（パーミル）とは、1000m進む毎に50m上ることを指す。普通の鉄道で越えられる勾配は35%と言われ、これを上回ると特別な車両が必要となる。



極楽橋駅でケーブルカーに乗り換える。車両も駅のホームも傾斜に合わせて階段状になっている。井戸の釣瓶のように上り車両と下り車両が直径5センチのケーブルで繋がれている。